

ドクター メモ

虫刺され

かゆみを伴う湿しん

症状が強い場合は医師に相談を

虫刺されは誰もが経験する身近な皮膚疾患です。原因となる虫として、吸血する虫は蚊やノミ、ダニ、ブユなど、刺す虫としてハチ、かむ虫はクモやムカデ、接触するだけで毒針毛が刺さる虫は毛虫などが挙げられます。今回は吸血すること

でかゆみを起こす虫刺されを説明します。

かゆみを伴う皮しんは、刺されたときに皮膚に注入された、だ液物質に対するアレルギー反応で起こり、すぐに起こる即時型反応と、数時間してからゆっくり起こる遅延型反応があります。

即時型反応は数時間で軽快しますが、遅延型反応は2〜3日後にピークになり、発赤やしこり、ひどい場合は水ぶくれになり、軽快するのに1週間程度かかります。これらの反応の強さは、虫に刺される頻度や年齢、体質など、個人差があります。

一般的に蚊は顔や腕、脚などの露出部分を、ダニは脇腹や太ももの内側など皮膚の柔らかい部分を、ノミはすねから足を刺します。虫に刺された覚えがない場

合、原因の虫を特定することは困難ですが、湿しんのある部位や性質・状態、発症した場所や時期などから原因の虫を推定して診断し、虫に刺されないようにする対策を考えます。

症状が軽い場合は市販のかゆみ止めの塗り薬でも十分ですが、症状が強い場合は、かき続けることで湿しんに移行して治りにくくなる場合があります。また、幼・小児で二次的に細菌感染を起こし、とびひの原因になることもありますので、

ステロイド剤の外用や抗ヒスタミン剤の内服による治療が必要になります。

吹田市医師会

北島 淳一
きたしま じゅんいち

